

2016年11月21日
九州旅客鉄道株式会社

2017年3月期第2四半期決算説明会 主なQ&A

Q 通期の見通しについて、基調を教えてください。

A 地震の影響については慎重に動向を見ている。鉄道運輸収入は順調に戻ってきているが、一方でインバウンドについてはお客さまの戻りが鈍い国・地域もあるため、今後も動向を注視していく。また、当社にプラスに働いている「九州ふっこう割」についても12月でなくなるため、どれほど影響があるのかを注視していきたい。

Q 設備投資について、中期経営計画期間で1,900億円と計画しているが、拡大していく可能性があるのか。

A 今年度において中期経営計画策定時には計画していなかった物件を2件ほど取得している。今後も不動産市況を注視しながら、当社の不動産取得に関する判断基準をもとに積極的に物件を取得していきたい。成長投資としては800億円を掲げているが、順調に取得も進んでおり、今後も積極的にチャレンジしていきたい。

Q 熊本地震の影響額について、上期と下期に分けるとどのようなイメージか。

A 鉄道運輸収入については、半年から1年程度で前年度並みに回復すると考えており、毎月の鉄道取扱収入を注視している。上期については鉄道運輸収入が約36億円の減収となっているが、このほとんどが地震の影響であると考えている。鉄道運輸収入については、下期も動向を注視していきたい。連結子会社においても、熊本を中心に店舗やホテル等が被害を受けたが、休業した店舗やホテルは上期中に営業を再開している。費用については、災害損失として既に約12億円、引当金繰入として約76億円計上している。但し、復旧箇所の全容が解明されているわけではないので、今後も変動する可能性はあると考えていただきたい。

- Q 後発事象として福岡市の道路陥没事故を挙げているが、我々としてどのようなリスクを織り込めばよいか、御社の参画の仕方などを教えて欲しい。
- A 影響額は現時点では不明だが、当社の連結子会社である三軌建設がJVとして福岡市営地下鉄の工事を請け負っている。具体的な影響については、情報が入り次第、適切に対応していく。
- Q 財務面でのターゲットについて、現在財務体質は健全だが、今後の目線として考えているD/E等の適切なレバレッジ水準は。また、どのくらいのタームでどのようにしていきたいか考えを教えて欲しい。
- A バランスシートを見ていただくと、経営安定基金を取り崩したものの、未だ純資産が厚くなっている。これは、JR発足時に分厚い資本準備金が設定されたことが経緯としてあることをご理解いただきたい。前期のD/Eレシオは約0.3であり、今後も利益等が積み上がっていくと、なかなかすぐには上がらないため、D/E以外の別の指標で考えるべきではないかとも考えている。今後はKPIとして掲げているEBITDAをもとにしたD/EBITDAを指標とすることも検討しながら、負債の適切な活用を図っていきたいと考えている。
- Q 来年度以降の配当の考え方について、安定ということなので減配はないと考えているが、配当性向30%ということで、減価償却費が積みあがり利益が上がらない場合には配当は増えないという考え方をすべきなのか、それとも御社が増えていくと計画しているEBITDAとの兼ね合いで考えていくべきなのかを教えて欲しい。
- A 中期経営計画の期間である3カ年は、配当性向30%程度を目安に安定して配当することを配当方針として定めている。確かに鉄道事業は減価償却費の積み上がりの影響を受けるが、その中でも営業利益をしっかりと維持できるよう、増収やコスト削減に努めていく。

以上